

平成20年5月15日

各 位

会社名 株式会社バンテック・グループ・ホールディングス
代表者名 代表取締役社長 篠田 紘明
(コード番号：9382 東証第一部)
問合せ先 常務執行役員 小田 順理
TEL 045-410-0844

中期経営計画策定に関するお知らせ

当社は、2008年度を初年度とする3カ年の「バンテックグループ中期経営計画（2008－2010）」[BASIC “&” INNOVATIVE（基本に立ち返り、グローバル新時代を切り拓く）]を策定いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 中期経営計画の位置付け、基本方針

当バンテックグループはそれぞれ日産自動車株式会社および東京急行電鉄株式会社からMBOで独立した株式会社バンテックとバンテックワールドトランスポート株式会社(旧名:東急エアカーゴ)が2005年3月に経営統合し、「陸・海・空」の物流を総合的に提供する企業グループとして業礎を固めて参りました。

これらの経営統合やM&A、資本参加などの諸活動も含め、連結業績は2006年3月期から2008年3月期の間売上高は1,389億円から1,619億円へ、営業利益は63億円から70億円へ、当期純利益は38億円から46億円へと成長し、2007年9月にはグループの持株会社である当社株式を東京証券取引所第一部に上場いたしました。

今日、物流企業を取り巻く環境を見ますと、国内市場は既に成熟期に入っており、高い成長性は望めない上にコストアップ要因が多く極めて厳しい状況にあります。

経営的に見れば、特色・強みを活かした新しいサービスの開発、顧客基盤・業務範囲の拡大を行い、一方でコスト競争力を継続的に強化していかなければ企業の生存すら難しい時代に突入しているのが、現況となっております。

国際市場におきましては、業界の再編がダイナミックに進み、企業間競争は熾烈を極めておりますが、市場としてはBRIC‘Sを初め、今後の発展期待の大きい市場も多く、それらの成長力を我々のビジネスに取り込んでいくことが大きな戦略課題となっております。

このような経営環境の下、われわれは、グローバル企業を目指して継続的に成長し、企業価値を高めるために、ここで過去一連の企業統合化の総整理を行い、次の5項目を達成すべく、新しい時代に対応した組織・体制、コスト構造、システムなどを構築することといたしました。

- ①顧客基盤の拡充、強化
- ②国際物流事業の拡大
- ③コスト競争力の強化
- ④人材、システム、物流施設等のインフラ整備
- ⑤CSR経営の推進

グローバルな業務展開のためには一定の企業規模、財務基盤が必要であり、また人材、インフラに支えられた企業としての特色・強みも欠かすことができません。

我々は、物流企業としての基本に立ち返りながら、コントラクトロジとフォワーディングの融合（ハイブリッド）の特色を最大限に活用する“グローバルSCMサービス企業”として飛翔したいと思いをします。

今後3カ年をカバーする本中期経営計画では、規模的には2,500億円を、また、コスト競争力の面では、グループ営業利益率5%を達成すべく、総合的な施策をとっていく所存であります。

なお、より長期的には戦略的提携や合従連衡なども視野に入れ、売上高5,000億円規模の企業グループを目指したいと思っております。

2. 経営に対する基本的な考え方

(1) 経営理念

私たちバンテックグループは、世界の陸・海・空を結ぶグローバルな物流業務を展開し、常に新しい付加価値を創造することによって、社会・経済の発展と人々の豊かな生活に貢献します。

(2) 経営方針

私たちバンテックグループは、次のような企業像を目指しております。

- ①収益力が高く、常に成長、進化を続ける
- ②現場力と技術力を磨き、質の高いサービスでお客様の信頼と満足を獲得する
- ③グループの総合力を活かす
- ④得意分野を活かし、自動車部品物流ではグローバル市場でのブランドを確立する
- ⑤人を活かし、人材を育てる
- ⑥健全で良き企業市民となる

(3) 企業行動指針

私たちバンテックグループは私たちを支えていただいている様々なステークホルダーの皆様に対し次の指針に従います。

- ①お客様：お客様の立場になって知恵を出し、価値を創造いたします。常に誠実な対応を通じてお客様の満足度向上、信頼の獲得に努めます
- ②株主：高収益を追及し、成長を続けることにより企業価値の向上に努めます
- ③取引先：取引先から信頼される企業を目指し、公正・透明な取引を推進します
- ④従業員：従業員とその家族を尊重し、働きがいと個人の成長を大事にします
- ⑤地域社会：地域社会の一員として、良き企業市民として社会と共生します
- ⑥環境：地球環境にやさしい企業活動を指向します

3. グループ業績目標の概要

◎2011年3月期	連結売上高	2,500億円	(内500億円はM&A等による)
	連結営業利益	125億円	(内25億円はM&A等による)
	連結経常利益	125億円	(内25億円はM&A等による)
	連結当期純利益	75億円	
事業の種類別セグメント構成比	国内物流	55%	国際物流42%、その他3%
	(2008年3月実績)	国内物流59%	国際物流37%、その他4%

年度別目標

(単位：億円)

項目	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	連結当期純利益
2011年3月期	2,500	125	125	75
2010年3月期	1,850	82	84	50
2009年3月期	1,720	75	77	47

◎戦略投資枠300億円の設定 (内 M&A200億円 物流施設100億円)

◎目標とする経営指標

売上高経常利益率 5%以上、ROE 15%以上、ROA 10%以上

◎M&A等による増収・増益額(売上高500億円、営業利益25億円、経常利益25億円)及び組織再編等による戦略的コスト削減策の効果額10億円は、最終年度(2011年3月期)に計上しております。

4. 主要施策

(1) 顧客基盤の拡充、強化

- ・ 一貫サービスの開発と新規取引拡充
- ・ 既存お取引先との取引深化の推進、クロスセルの強化
- ・ グローバルアカウント取引の拡大
- ・ 海上事業の強化
- ・ ITの戦略的活用
- ・ グローバル物流コンサルティングの強化

(2) 国際物流事業の拡大

- ・ 重点地域(中国圏、アセアン・インド、欧州・ロシア、米州)における統括機能の設置と人材の重点配置(ロジ、フォワーディングの一体取り組み)
- ・ 重点地域を中心とした拠点網の強化(提携、M&Aを含む)
- ・ 国際物流事業関連物流施設の拡充(国内、海外)
- ・ 海上事業の強化
- ・ 航空、海上事業でのイントラアジア、アジア発着貨物の捕捉強化

(3) コスト競争力の強化

- ・ グループ横断的なコスト構造の改革により営業利益率5%を確保
- ・ グループ管理機能(コーポレート、管理部門)の統合化
- ・ 低採算事業の再見直し
- ・ グループ共同購買機能の強化・徹底
- ・ シェアード・サービス会社の設立

(4) 人材、システム、物流施設等のインフラ整備

- ・ 人材を活かし、活力ある企業風土の創造
- ・ 人材のグローバル化推進(邦人の海外要員拡充、外国人の戦力活用)
- ・ 現場力、ノウハウの承継教育充実
- ・ システムインフラの整備
- ・ 物流施設の充実(国内、海外)

(5) CSR経営の推進

- ・ 内部統制力の進化
- ・ 継続的コンプライアンス、安全管理の徹底
- ・ 環境問題への積極的取組
- ・ 総合的リスク管理力の強化

5. われわれの決意

経済のグローバル化が急速に進む今日、国内・国際を問わず物流関連企業の淘汰が進行していくことは時代の趨勢と思われます。われわれは、このような時代、環境を乗り越え、特色あるグローバル企業として存在力を増して行きたいと熱望しております。

そのために、ここで基本に立ち返り、基盤をしっかりと固めながら、新しい時代に向かって積極的な攻めに出ることが必要だと考えております。

現下の経営課題としては、短期的な成果と中長期施策、守り(基礎固め)と攻め、規模と効率(利益率)などなど、“OR(AかBの選択)”よりも“&(AもBも。双方のバランス)”を求められています。

われわれはこれらの“&”を解決し、変革の強い意思を持って新しい時代を切り拓いてまいります。

以上